

船引・小野高等学校 統合再編事業基本計画

令和6年8月
県立高校改革室

目次

I	統合再編事業基本計画	1
1	福島県立船引高等学校の概要	1
	(1) 沿革の概観	1
	(2) 沿革の概要	1
2	福島県立小野高等学校の概要	1
	(1) 沿革の概観	1
	(2) 沿革の概要	1
3	統合再編等整備を行う必要性	2
4	統合再編等の内容	2
	(1) 統合再編内容	2
	(2) 統合再編等整備による学科の構成と規模	3
	(3) 統合再編等に伴う教育目標等	3
	(4) 教育課程編成方針	3
	(5) 教育課程単位計画表(案)	4
5	統合対象校の教職員数	4
6	統合再編等に係る年度別学科状況 ※○数字は学級数を示す。	5
II	施設・設備整備計画	5
1	統合再編等に伴う学校施設・設備整備計画	5
	(1) 施設・設備整備の基本的な考え方	5
	(2) 施設・設備の整備構想	5
	(3) 備品・その他の整備構想	12
	(4) 統合までの工事スケジュール	13
	(5) 統合後のスケジュール	14
	(6) 施設の配置等	15
	【別紙1】教育課程単位計画表(案)	20

1 統合再編事業基本計画

1 福島県立船引高等学校の概要

(1) 沿革の概観

本校は、昭和23年に定時制農業科1学級、家庭科1学級をおく福島県立船引高等学校として開校した。その後、昭和26年に福島県立田村高等学校農業部、昭和28年に福島県立田村高等学校第二部となった。昭和35年の学則改正により福島県立船引高等学校となり、福島県立田村高等学校七郷分校は福島県立船引高等学校七郷分校となった。七郷分校は昭和41年に閉校した。昭和51年には産業科を、平成11年には家政科を廃止した。平成21年からデュアル実習を開始し、平成27年に募集定員が120名となり、現在に至る。平成30年10月には創立70周年記念式典を挙

(2) 沿革の概要

- 昭和23年 福島県立船引高等学校として開校
- 昭和26年 福島県立田村高等学校農業部となる。
- 昭和28年 福島県立田村高等学校第二部となる。
- 昭和30年 全日制農業科の募集を停止する。
- 昭和32年 短産課程の農業科、家庭科各1学級を併置する。
- 昭和35年 福島県立船引高等学校となり、福島県立田村高等学校七郷分校は福島県立船引高等学校七郷分校となる。
- 昭和40年 短産課程の募集停止。第1学年の定員は普通科220名、家政科55名となる。
- 昭和41年 七郷分校廃校
- 昭和45年 産業科を設置する。
- 昭和51年 産業科廃止
- 平成9年 第1学年の定員は普通科320名（総合コース280名、福祉コース20名、食物文化コース20名）となる。
- 平成11年 家政科廃止
- 平成21年 デュアル実習スタート
- 平成23年 コース制廃止
- 平成27年 第1学年の定員は普通科120名となる。
- 平成30年 創立70周年記念式典挙

2 福島県立小野高等学校の概要

(1) 沿革の概観

本校は、小野新町・滝根町・飯豊町・夏井村の組合立により福島県田村農蚕学校として開校した。その後、昭和22年に福島県立田村農蚕学校、昭和23年に福島県立田村農業高等学校、昭和27年に福島県立小野新町高等学校と改称した。さらに、昭和30年に、町村合併により福島県立小野高等学校・同平田分校と改称し、昭和33年から昭和47年にかけて福島県小野産業高等学校も併設した。平成10年に総合学科4学級を開設し、平成31年3月には平田分校を閉校した。令和3年に募集定員が80名となり、現在に至る。令和4年12月には、創立80周年記念式典を挙

(2) 沿革の概要

- 昭和17年 小野新町・滝根町・飯豊村・夏井村の組合立として福島県田村農蚕学校設置許可
- 昭和22年 福島県立田村農蚕学校と改称
- 昭和23年 福島県立田村農業高等学校と改称
- 昭和24年 石川郡蓬田村永田に定時制分校を設置し、蓬田分校と称す。
- 昭和25年 全日制普通科併置
- 昭和27年 福島県立小野新町高等学校と改称
- 昭和30年 町村合併により、福島県立小野高等学校・同平田分校と改称
- 昭和33年 福島県小野産業高等学校を併設し、協力校となる。
- 昭和47年 福島県小野産業高等学校閉校
- 昭和51年 募集定員、普通科228名、農業科・畜産科各40名、家政科48名となる。
- 昭和54年 募集定員、普通科270名となる。
- 平成10年 総合学科を開設し、募集定員200名となる。
- 平成29年 平田校、生徒募集停止
- 平成31年 平田校閉校
- 令和3年 募集定員、総合学科80名となる。
- 令和4年 創立80周年記念式典挙行

3 統合再編等整備を行う必要性

船引高等学校は、1学年3学級規模の普通科の高校として、生徒の多様な進路希望に応じた進学、デュアル、ビジネスの3つのコースの学びや地域課題の探究活動等を実践し、社会や地域づくりに求められる人材の育成に貢献してきた。一方、小野高等学校は、文理総合、産業技術、ビジネス、福祉教養の4つの系列をもつ1学年2学級規模の総合学科の高校として、商業や農業、福祉を学ぶことのできる専門教育を特色に掲げ、地域にとって有為な人材の育成に貢献してきた。しかし、近年、両校とも募集定員を満たさない状況が続いており、学校の教育活動に支障が出る恐れがあること、また、県立高等学校改革基本計画で示した「望ましい学校規模を4～6学級とし、3学級以下の学校は、魅力化を図りながら統合を推進する」及び「隣接する市町にある複数の学校のいずれかが1学年4～6学級の学校規模を維持できない場合」に該当することから、両校を統合し、一定の学校規模を確保して、教育内容の充実を図ることとした。

統合校については、両校の学びと伝統を継承し、県中地区唯一の総合学科の高等学校として、生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群（系列）を設け、地域に根差したキャリア指導推進校とする。さらに、地域と連携したキャリア教育の充実により、地域を支える核となる人材の育成を図るために、1学年4学級規模の総合学科として統合再編等整備を進める。

4 統合再編等の内容

(1) 統合再編内容

- ア 統合再編対象校 船引高等学校、小野高等学校
- イ 統合再編年度 令和8年度
- ウ 統合学校名 福島県立船引・小野統合高等学校（仮称）

- エ 設置場所 船引高等学校校地
田村市船引町船引字石崎15番地の3
- オ 学校規模 1学年4学級160名
完成年度（令和10年度）12学級480名

(2) 統合再編等整備による学科の構成と規模

令和5年度 船引高等学校

課程	通学区域	大学科（学級数）	小学科（学級数）
全日制の課程	県中	普通科（3）	

令和5年度 小野高等学校

課程	通学区域	大学科（学級数）	小学科（学級数）
全日制の課程	全県	総合学科（2）	

令和8年度 統合再編高等学校

課程	通学区域	大学科（学級数）	小学科（学級数）
全日制の課程	全県	総合学科（4）	

(3) 統合再編等に伴う教育目標等

ア 教育目標

- (ア) 幅広い領域の知見を総合的に理解し、新たな価値を創造できる学力の育成
- (イ) 主体的・協調的に考え、行動できる豊かな人間性の育成
- (ウ) 幸福で活力ある人生の基盤となる健康・体力の育成
- (エ) 地域と連携・協働し、地域づくりに積極的に取り組む社会性の育成

イ 教育方針

自ら学び考え行動する主体性を持ち、広い視野、自由な発想から他者ととともに新しい価値を創造し、豊かな社会・地域づくりに貢献する人材の育成を図る。

ウ 校訓 自律、明朗闊達、共創

(4) 教育課程編成方針

- 船引高校の取組を継承し、自治体や地域企業との連携等によりデュアルシステムを実践するなど、生徒の職業観を育むキャリア教育を充実させる。
- 小野高校の取組を継承し、地域資源を活用した商品開発に取り組むなど、社会に積極的に関わる教育活動を実践する。
- 生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群（系列）を設置する。
 - (ア) 文理探究系列

主に国数英理社5教科を中心に学び、国公立をはじめとした四年制大学や短期大学、医療系等の専門学校進学を目指す。多様性と包摂性のある持続可能な社会を創造することができる人材育成を目指した探究的な活動に取り組む。

(イ) プロフェッショナル系列：食農・6次化分野

野菜等を中心とした園芸作物の栽培及び食品製造の基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指し、生産だけでなく、食品加工や食品分析等の学びを系統的・計画的に実施する。パンや菓子類などの製造や地域の農産物による6次化商品開発等に取り組む。

(ウ) プロフェッショナル系列：情報技術分野

情報技術の基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指し、プログラミング技術から機械の制御までの一連の学びを体系的に実施する。基本的なソフトウェア開発や制御装置による電子工作等に取り組む。

(エ) プロフェッショナル系列：ビジネス分野

商業活動の基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指し、簿記や情報処理、流通等の学びを系統的・計画的に実施する。データの整理や抽出、解析等の情報処理等に取り組む。

(オ) プロフェッショナル系列：福祉・保育分野

福祉と保育の基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指し、より良い人間の生き方や尊厳等についての学びを系統的・計画的に実施する。地域福祉と持続的な福祉社会の発展を創造、探究する学習活動に取り組む。

- 個に応じた丁寧な学習指導や進路指導を実施する。
- 両地域の自治体や地域企業と連携した地域課題探究型学習を実施する。
- デュアルシステムを実施する。

(5) 教育課程単位計画表 (案)

R7年度完成予定 参考【別紙1】

5 統合対象校の教職員数

船引高等学校

校長	教頭	教諭	養護教諭	実習助手	事務	合計
1	1	27	1	1	2	33

小野高等学校

校長	教頭	教諭	養護教諭	実習助手	事務	合計
1	1	22	1	3	2	30

6 統合再編等に係る年度別学科状況 ※○数字は学級数を示す。

		R 7	R 8	R 9	R 1 0
統合校	総合学科	1 学年		④	④
		2 学年		④	④
		3 学年			
船引高校	普通科	1 学年	②	募集停止	
		2 学年	②	②	
		3 学年	③	②	②
小野高校	総合学科	1 学年	②	募集停止	
		2 学年	②	②	
		3 学年	②	②	②
学級数		総合学科 6 普通科 7 計 1 3	総合学科 8 普通科 4 計 1 2	総合学科 1 0 普通科 2 計 1 2	総合学科 1 2 計 1 2

II 施設・設備整備計画

1 統合再編等に伴う学校施設・設備整備計画

(1) 施設・設備整備の基本的な考え方

- ア 統合校は船引高等学校の既存の校舎を利用する。統合校として十分な教育活動が展開できるように施設・設備を整備する。教室配置については、従来の配置にとらわれることなく、機能性を考え、適切に配置する。
- イ 現有の備品等、統合後も継続して使用可能なものは継続して使用する。
- ウ 生徒が安心安全な学校生活を行うために必要なスペースや施設・設備を整備する。
- エ 必要な改修や修繕並びに備品等の整備を行う。
- オ 教室の分割工事や改修工事を行い、総合学科の特色を生かした、多様な進路希望の実現に向けた丁寧な学習指導及び進路指導が機能するように整備する。
- カ 「主体的、対話的で深い学び」の実践を推進するための一助として、Wi-Fi環境等をはじめとしたICT環境を整備する。
- キ 地域に開かれた学校づくりの視点に立って整備する。
- ク 建物の仕様については、ZEBReadyを目指す。
- ケ 空き校舎等については、利活用の協議に沿って適切に対応する。

(2) 施設・設備の整備構想

- ア 本校舎となる船引高等学校の施設について、次のように整備する。

① 統合に伴う大規模改修（令和9年度実施）

- a 校舎外壁等改修工事

校舎については、壁のひび割れや欠損、鉄筋の一部露出があるため、降り方によっては雨漏りする可能性がある。また、地震等による外壁落下があり、危険である。さらに、雨水侵入による腐食等の深刻な影響が懸念されており、消防用設備の誤作動が起こるなど学校生活に支障が出ている。統合校の生徒の安心安全な学校生活環境を整えるために不可欠な工事である。

b 職員室移設工事

統合後の教員数増加に対応するとともに、円滑な教務運営に資するべく、学年毎に分かれている職員室を1箇所を集約する。現在、美術室と社会科教室として使用している教室間の壁を取り払い拡充して、利用できるよう整備する（エアコン設置、Wi-Fi設置、電気設備改修）。

※職員室の移設に伴い、現福祉実習室を美術室として整備する（水道設備改修）。

c 教室分割改修等工事

総合学科変更による選択科目増加や習熟度別授業実施に伴う講座数増加に対応するため、特別教室3教室（図書室、調理実習室、総合実習室）の既存設備を撤去し、移動式間仕切りで区切る分割工事を行い、少人数の授業が行える選択教室として整備する。また、視聴覚室の既存設備を撤去して、グループ学習などが行える演習室として整備する（可動式間仕切り壁設置）。統合校としての新たな学びを開始するにあたり、生徒の学習環境を整えるために必要な改修である。

d 音楽室改修工事

現音楽室は防音性能が低く、音漏れが確認されている。統合校では音楽の授業はもちろん、保育の授業でも音楽室を使用するため、使用頻度が高くなり、他の授業への影響が懸念される。廊下側の壁と入口扉の防音性能を向上させ、生徒の学習環境を整える。

e 書道室新設工事

統合校の芸術の授業では書道の選択を可能としているが、現存教室では書道の授業を行える教室がないため、現在、家庭経営デザイン室として使用している教室を書道室とし、学びに必要な環境を整える（水道設備改修）。

f 電気設備改修工事

ICT機器の導入に伴い電源が不足しており、室内の計2箇所のコンセントでは間に合わないため、黒板クリーナーやサーキュレーターをその都度差し替えて使用している。統合校としての新たな学びを開始するにあたり、生徒の利便性や学習効果、施設の管理運営面で必要な工事である。また、2つの系統に分かれている配電盤を集約し、緊急時に不具合箇所を迅速に特定できるようにする。

g 高圧受変電設備更新工事

電灯変圧器用の高圧負荷開閉器（1981年製）、主遮断装置の真空遮断器及び過電流継電器（1990年製）、電灯用変圧器（1994年製）はいずれも更新推奨期間を大きく経過して使用しているため、経年劣化による絶縁低下など

電気事故の発生の危険がある。幾度となく落雷によるダメージを受け（最近では令和元年度、令和2年度）、冬期暖房器具の使用時にはブレーカーが落ちるなど、生徒の授業及び教職員の業務に支障があるため、早急に更新が必要である。また、建屋の劣化も顕著で、定期的な電気設備点検を業者に委託する際には敬遠され、すべての更新を前提にしないと契約をしないと意見されている。高圧受変電設備の事故は生徒の学校生活や設備自体にダメージがあるだけでなく、地域にも影響が及ぶ可能性があることから、不可欠な工事である。

h 照明設備改修工事

1 教室あたりの照明器具が1本付け蛍光灯12灯と少ないことから照度不足になっており、生徒からは黒板が見やすくなるよう照明器具を交換してほしいとの要望が出ている（黒板：最大照度457～516lx、照度判定基準500lx以上）。統合校としての新たな学びを開始するにあたり、生徒の安心安全な学校生活環境を整えるために必要な工事である。

i 自動火災報知設備更新工事

消防用設備等点検において受信機の不具合が指摘されたため、修理を依頼すべくメーカーに問い合わせたが、部品の供給が終了し修理不能であった。また、耐用年数15年が経過していることから、早急に設備を更新し、点検で指摘された事項を解消する必要がある。令和4年当初において設計委託予算措置があったが、後期計画による統合が予定されているため時期をみて実施することとした。生徒の安心安全な学校生活環境を整えるためには不可欠な工事であり、早期に更新する必要がある。

j 放送設備更新工事

チャイム変更のマークシートは読み取り不具合により、調整に長時間かかる。機器の保障期間は大きく経過し、現在は部品や消耗品の調達ができない。放送機器は、放送時に異音や雑音が混じる、音量調節ができない場合があるなどの異常が確認されている。統合校の入試業務をはじめ、有事の際の避難指示等が円滑に行われたい懸念があるため、更新が必要である。

k 暖房設備変更工事

現在の蒸気ボイラーは開校以来40年稼働しているが、経年劣化による不具合が発生するなか、扱いに慣れた技士が調整しながら学校生活に支障がないよう対応している。毎年、配管の蒸気漏れ箇所を修繕するとともに、令和4年には本体内部で水漏れが確認され、セクションを交換する修繕工事を行った。経年劣化し、耐用年数を踏まえた寿命が大幅に過ぎていることから、今後も同様の水漏れが頻発するであろうと指摘されている。設備とさらに人的確保の面から、統合時には事務室等で集中管理ができる設備に変更する。

② 実習棟新築工事（令和8、9年度実施）

統合校で新設するプロフェッショナル系列の4分野では専門的な学びを関連させ学校全体の目標に向かうように実施することとしている。この系列では4分野でのそれぞれの学びの特色を生かして、地域の農産物で商品開発し、販売することで、新たな特産品をつくり、地域発展に貢献していく。また「地域と連携・

協働し、地域づくりに積極的に取り組む社会性の育成」を統合校の教育目標の一つに掲げており、地域住民との対話や協働を伴う探究的な学びを推進していく。こうした新設系列の学びの場として、専門的な設備の整った実習室を建設する必要がある。また、図書館を地域に開かれた多様な学びの場の拠点とし、定期的に地域と交流活動を行ったり、統合校で製造した加工食品等を展示・販売したりする。整備予定地（敷地面積58,002㎡）は、校舎南側の校庭、あるいはシロアリの影響で倒壊の恐れがあり使用を禁止している和室（木造、123㎡）と自転車置き場（鉄骨造、40㎡）を解体した上で、その跡地を含む校舎北側の敷地を予定している。実習棟の内部については、以下のとおり整備する。

<実習棟諸室面積等一覧> ※木造+RC造、3階建て、延べ面積3650㎡

教室名等	室数	面積 [㎡]	面積 [㎡]	最大受講 人数[名]	使用する授業	備考
食品加工室①	1	135	135	20	・食品製造 ・総合実習	製菓製パン室
食品加工室②	1	135	135	20		漬物加工室、アイスクリーム製造室
食品加工室前室	1	33.75	33.75			
調理室	1	135	135	40	・家庭基礎 ・食品製造 ・フードデザイン ・調理	
多目的研修室	1	67.5	67.5	40	・総合的な探究の時間 ・産業社会と人間 ・総合実践	
介護実習室	1	135	135	20	・社会福祉基礎 ・介護福祉基礎 ・総合介護実習 ・介護実習 ・生活支援技術	
家庭科総合実習室	1	168.75	168.75	40	・家庭基礎 ・ファッション造形基礎 ・服飾手芸 ・保育基礎 ・保育実践	
産業技術実験室	1	101.25	101.25	20	・食品化学 ・食品微生物	
工作室	1	135	135	20	・電気回路 ・工業技術基礎 ・ハードウェア技術 ・実習	
パソコン室	1	135	135	40	・グラフィックデザイン ・プログラミング技術 ・ソフトウェア技術 ・コンピュータシステム技術 ・実習 ・情報処理 ・ソフトウェア活用	
AVホール	1	300	300	180		分野横断型の大人数での授業や講演会で使用する。
AV機材室	1	33.75	33.75			
準備室	5	33.75	168.75			調理、福祉、家庭科、農業科及び工業科の5部屋
男女トイレ	3	33.75	101.25			
図書館	1	270	270			
交流スペース	1	135	135			作品展示や地域住民との交流で使用する。
諸室面積			2190			EVの設置は想定していない。
供用面積			1460			入口、廊下、階段
実習棟面積			3650			

上記の他、既存校舎と繋ぐ渡り廊下（鉄骨造、30㎡）を整備する。

<実習棟諸室の用途・仕様>

a 食品加工室①②

統合により新設する「食農・6次化分野」では、地元食材を用いた菓子・パン・ジャム・アイスクリーム等の製造実習を通して、食品加工や食品衛生について学ぶとともに、製造した加工食品を校内外へ販売する計画である。そのために、加工から商品化までを行える実習室を整備する。衛生管理のため、HACCPの考えを取り入れ、扱う食品によって部屋を分ける。

※付帯施設として、手洗場やエアーシャワー等を備えた食品加工前室を有する。

b 調理室

家庭科の授業はもとより、新設するプロフェッショナル系列の分野横断的な取組として計画している6次化商品の開発に使用する。また、製造した加工食品を試食する場所としても使用する。そのため、機能性を考え、食品加工室の近くに調理室を配置する。統合校としての新たな学びの開始にあたり、調理台や試食テーブル等を配置できる十分なスペースを確保した調理室として整備する。

c 多目的研修室

総合学科変更による選択科目増加や習熟度別授業実施に伴う講座数増加に対応するため、40名を収容できる研修室として整備する。

d 介護実習室

統合により新設する「福祉・保育分野」では、車イスやベッドを使った実習を通して実践的な介護技術を学ぶこととしている。その学びのために必要な介護実習室を整備する。

e 家庭科総合実習室

現在、被服実習で使用している総合実習室を選択教室に改修することに伴い、新設する。統合校では家庭科の授業はもとより、福祉や保育の授業でも被服実習を行うため、実習室の使用頻度が高くなる。実践的な被服の授業を実施するためには、広い作業台が必要であり生徒の学習環境を整える必要がある。また、統合により新設する「福祉・保育分野」では、妊婦体験や沐浴実習等の実践を取り入れながら保育の知識や技術を習得していくこととしており、十分なスペースを確保し、被服及び保育の実習に対応できる総合実習室として整備する（間仕切り設置）。

f 産業技術実験室

統合により新設する「食農・6次化分野」では、食品製造に深い関わりのある酵母や細菌などの微生物の特徴や食品の成分や栄養といった化学的性質について、実験を通して理解を深め、分析技術を習得することとしている。その学びに必要なクリーンベンチやドラフトチャンバー、恒温器等を有する産業技術実験室を新設する。

g パソコン室

統合により新設する「情報技術分野」では、プログラミング等の専門的な学

びのために、現在あるコンピュータ実習室とは別に工業系の情報教育に対応できる高度な処理能力を有するパソコンが必要となるため新設する（間仕切り設置）。

h 工作室

統合により新設する「情報技術分野」では、プログラミング技術から機械の制御までの一連の学習を体系的に実施する。このため、プログラミングによる電子制御技術の習得のため、プリント基板の加工や材料の切削、3Dプリンターによる部品製造等の実習を行う。その学びに必要な工作室を新設する。

i AVホール

新設するプロフェッショナル系列で計画している分野横断型の授業や外部人材による講演会を行うなどの協働的な学びや探究的な学びを進めるために、視聴覚機能やICT機能を備え、180名が収容できる大型の講義室として整備する。

j AV機材室

視聴覚機器や教材等を保管するAV機材室を設置する。

k 準備室

新設するプロフェッショナル系列で行う実習のために必要な物品を保管し、教員が常駐できる準備室（調理準備室、福祉準備室、家庭科準備室、農業科準備室及び工業科準備室の5室）を設置する。

l 図書館

新設するプロフェッショナル系列については、その学びに必要な専門書を揃えたり、小野高校の蔵書を加えたりする必要があるが、現図書室では増える蔵書を保管するスペースを確保できない。統合校としての新たな学びを開始するにあたり、蔵書スペースを十分に確保した図書館として整備する（司書室、多目的トイレ2つを設置）。なお、実習棟からも入れるようにする（施錠できる扉の設置）。

m 交流スペース

定期的に地域と交流活動を行ったり、新設するプロフェッショナル系列の各分野が関連して開発した作品を展示・販売したりする場として、交流スペースを整備する（間仕切り設置）。図書館から入れるようにする。

＜実習棟諸室の設備・備品一覧＞

教室名等	(エアコン)	暖房	水道	ガス	Wi-Fi	備品	備考
食品加工室① (製菓製パン室)	○	○	○	○	○	冷凍冷蔵庫、電気スチコン、ドウコンディショナー、真空包装機、金属探知機、分割まるめ機、ミキサー、器具保管庫、給湯器 他 ※惣菜室: 冷凍冷蔵庫、器具保管庫、餡練機 他 ※包装室: 包装台 他	
食品加工室② (漬物加工室、アイスクリーム製造室)	○	○	○	○	○	ブレハブ冷蔵庫、冷蔵庫、キャッパ、真空包装機、充填機、プラスチック、パステライザー、食器消毒保管庫、給湯器、作業台、シンク類、漬物樽他 ※アイスクリーム室: 冷凍冷蔵庫、プラスチック、充填機 他 ※包装室: 金属探知機、冷蔵ショーケース、冷凍ストッカー 他	
食品加工室前室	○	○	○			手洗器2、ハンドドライヤー4、エアシャワー2 他	
調理室	○	○	○	○	○	生徒用調理台10、試食テーブル12、教師用実習台、業務用冷凍冷蔵庫、冷凍冷蔵庫2、洗濯機、上下式ホワイトボード、まな板・包丁殺菌保管庫、製水機、吊り下げ反射鏡、食器棚、窓下収納、窓下流し台(手洗いシンク、バケツモップ用)、乾燥機 他	
多目的研修室	○	○			○	机40、プロジェクター、スクリーン、上下式ホワイトボード 他	
介護実習室	○	○	○	○	○	車椅子10、車椅子対応IH調理台、オーバーテーブル6、電動ベッド6、折りたたみ式テーブル10、洗濯機、温水機能付き水道設備(5~6口)、歩行補助手すり、ホワイトボード 他	
家庭科総合実習室	○	○	○	○	○	上下式ホワイトボード、プロジェクター、洗濯機、温水機能付き水道設備、被服実習台12、教師用被服実習台、コンピュータタミシン30、ロックミシン6、刺繍機能付コンピュータタミシン6、ベビーベッド、平行スタックテーブル10、収納棚、窓下戸棚、乾燥機、他	・2部屋に仕切れるように間仕切りを設置する。
産業技術実験室	○	○	○	○	○	遠心分離機、オートクレーブ、振とう培養器、純水製造装置、ドラフトチャンパー、マッフル炉、恒温器、給湯器、薬品庫、クリーンベンチ3機、インキュベーター、他	
工作室	○	○	○	○	○	プリント基板加工機、レーザー加工機、精密卓上スライス盤、小型卓上スライス盤、卓上旋盤、卓上バンドソー、卓上ボール盤、ジグソーカッター、小型集塵機、エッチングセット、大型作業台、万力4、給湯器 他	防音仕様
パソコン室	○	○			○	教師用デスクトップPC2、生徒用デスクトップPC40、サーバ機器、インクジェット複合機2、モノクロプリンタ2、プロジェクター2、大型モニタ2、PA機器2、ネットワーク機器、中間モニタディスプレイ22、3Dプリンタ 他	・2部屋に仕切れるように間仕切りを設置する。 ・床はカーペットにする。 ・OAフロアにする。
AVホール	○	○			○	映像投影・制御用パソコン、電源制御ユニット、プロジェクター、スクリーン、天井釣りモニタ4基、移動式長机90 椅子180 他	防音仕様
AV機材室		○				ラック 他	
準備室	○	○	○	○	○	教師用机4、冷凍冷蔵庫、壁面1型調理台、戸棚、給湯器 他	
男女トイレ		○	○			男:小便用2、個室1 他 女:個室3 多目的トイレ1 他	
図書館	○	○	○	○	○	カウンター、閲覧用机、木製書架、ハイカウンター、雑誌架、新着本コーナー、スチール書架 他 ※開架約3万冊、閉架約7千冊	・実習棟から入れるようにする(施錠できる扉を設置)。 ・図書館内には司書室、多目的トイレ2つを設置する。
交流スペース	○	○			○	電子黒板、円形テーブル8、長机10 等	・図書館から入れるようにする。 ・2部屋に仕切れるように間仕切りを設置する。

③ 校章並びに校名板及び校名看板改修工事（令和7年度実施）

統合校の校章並びに校名板及び校名看板を改修する工事を行う。

④ 教職員用駐車場新設工事（令和7、8年度実施）

統合によって教職員数が増加することから、不足する教職員用駐車場を整備する（整備台数85台（たむら支援学校の教職員も含む）、うち既存台数35台）。必要に応じてフェンスの設置も検討する。

イ 校舎方式をとる、小野高等学校については、次のように整備する。

① 備品移転、廃棄処理（令和8、9年度実施）

小野高等学校の施設及びグラウンドは、校舎方式を採用するため、令和9年度末まで使用する。小野高等学校の備品については、令和8年度から令和9年度にかけて、統合校の本校舎や必要とする他の高等学校への移転・再設置を進め、不要備品については、令和9年度末までに廃棄する。

② 校章並びに校名板及び校名看板改修工事（令和7年度実施）

統合校の校章並びに校名板及び校名看板を改修する工事を行う。

（3）備品・その他の整備構想

- ア 校名変更に伴う校章、校旗、校歌等作成委託
- イ 統合校学校案内パンフレット及びポスター
- ウ 校名変更に伴う公印一式、ゴム印等
- エ 生徒・教職員増に伴う机・椅子、下足箱
- オ 総合学科変更に伴い必要となる生徒更衣ロッカー
- カ 実習棟内の実習室において必要となる備品
- キ クラス増加及び教室配置換えに伴う教室用プロジェクター機器類
- ク 各教室、特別教室等のWi-Fi環境の整備
- ケ 制服のデザイン委託、運動着選定
- コ 各教室、特別教室のWi-Fi環境の整備
- サ その他、統合に伴い必要となるものの整備

(4) 統合までの工事スケジュール

整備方針	令和5年度												令和6年度												令和7年度												令和8年度
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
営繕 依頼 工事	予算要求	工事費+当初予算						営繕協議																		統合校開校											
	実施設計													発注準備																							
	改修工事																																				
	建設工事																																				
その他の工事	工事費+当初予算																		発注準備																		
移設・再設置																																					
需用費 (修繕工事)													準備			入札			実施設計			契約 手続															
備品整備													準備			入札・契約						搬入															

年度	施設・設備	備考
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 改修等にかかる経費等の次年度当初予算要求 営繕協議 	<ul style="list-style-type: none"> 統合校教育内容検討委員会を実施し、特色化や教育内容、施設・設備への整備など具体的に検討する。 小野高等学校の空き校舎等の利活用を協議する。
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> 備品整備並びに各経費の次年度当初予算要求 工事に係る設計委託 	<ul style="list-style-type: none"> 新校名決定(年内) 校歌、校章、校旗、統合校学校案内作成等の委託準備
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> 備品整備並びに各経費の次年度当初予算要求 工事に係る設計 校名、校章変更に伴う工事実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各備品等入札、発注及び搬入整備 関係備品等移転及び再設置 統合校開校準備

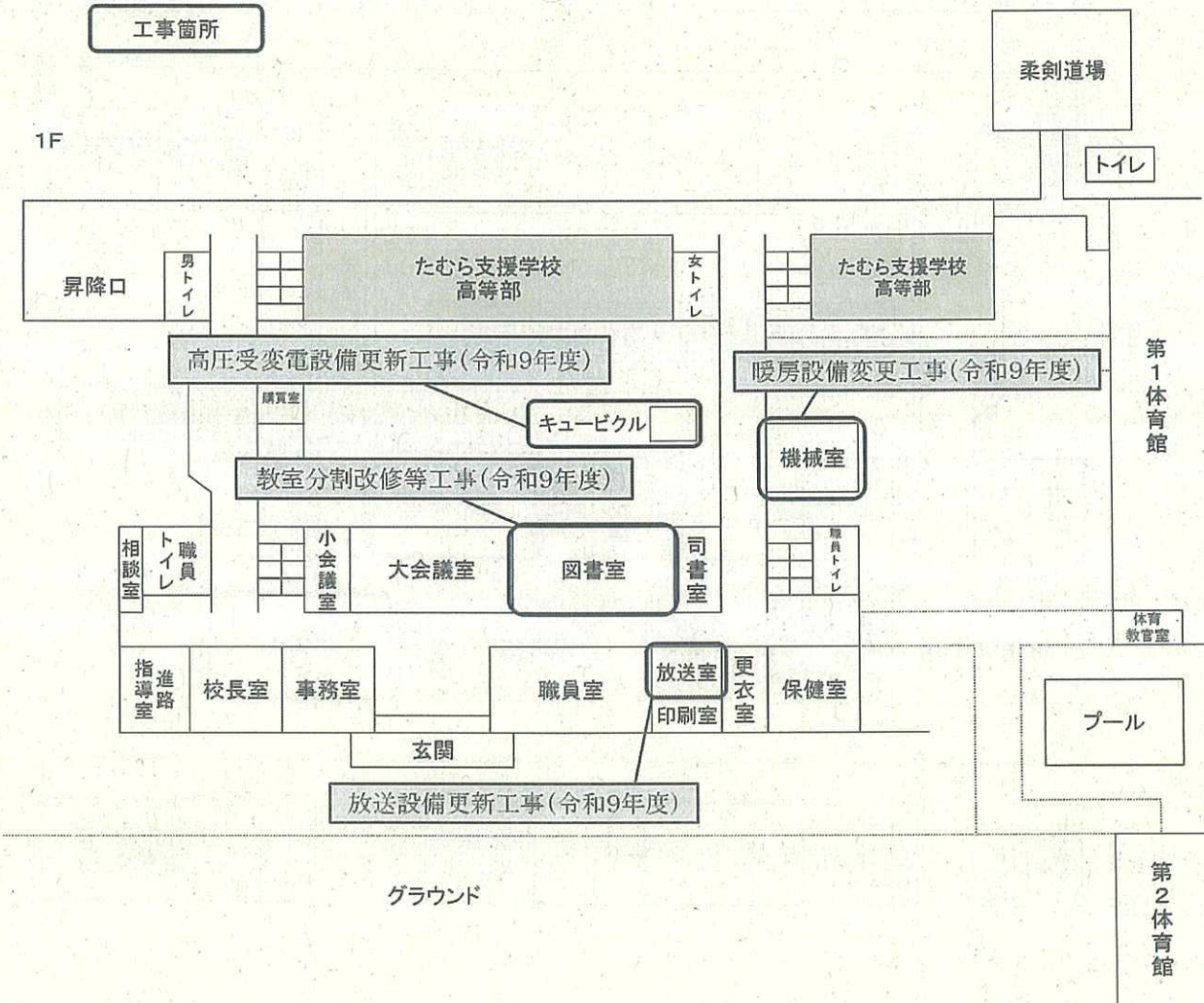
(5) 統合後のスケジュール

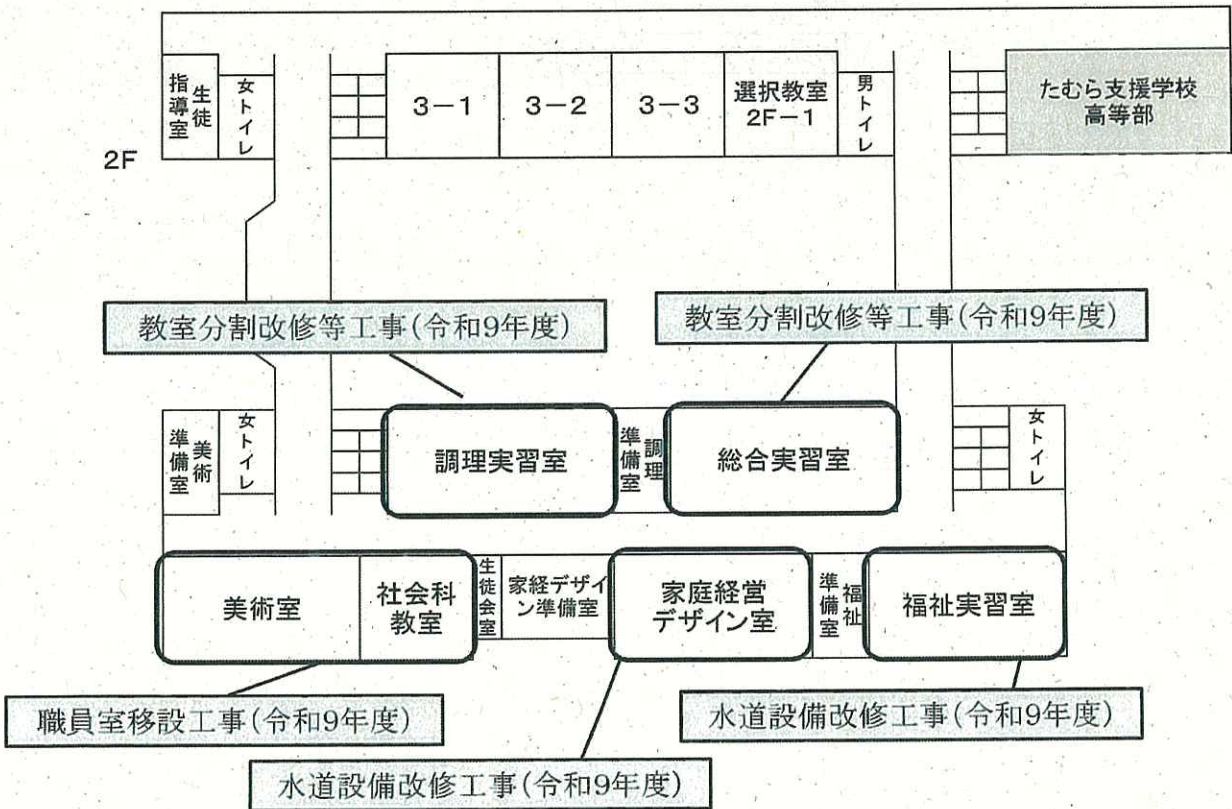
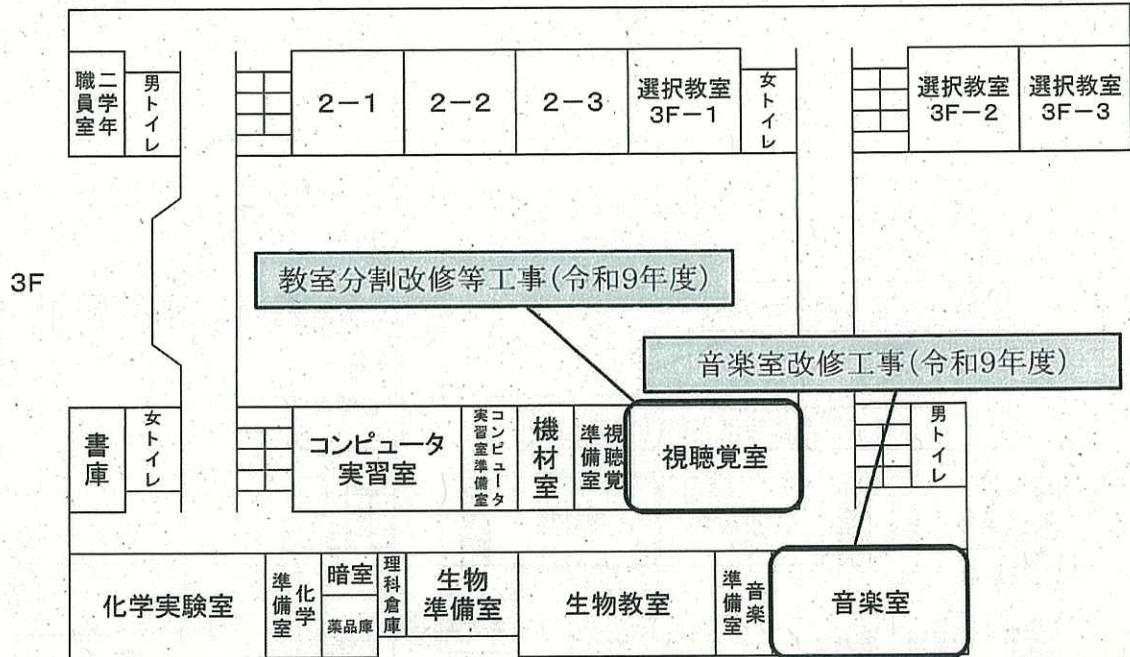
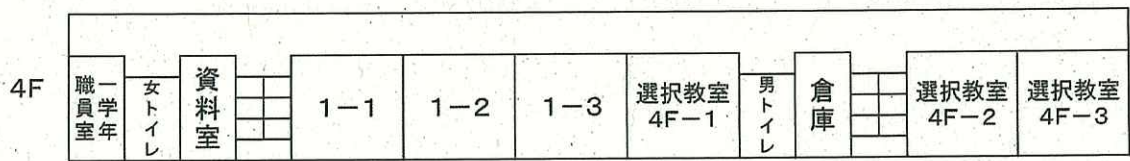
整備方針		令和8年度												令和9年度																																			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																								
営繕 依頼 工事	予算要求																								統合校開校																								校舎方式 終了
	実施設計			発注準備																																													
	改修工事																																																
	建設工事			準備																																													
移設・再設置																																																	
備品整備						準備	入札	発注																																									
物品の廃棄						準備	入札・契約																																										

年度	施設・設備	備考	
令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> ・備品整備並びに各経費の次年度当初予算要求 ・工事に係る設計委託 ・実習棟新築工事実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各備品等入札、発注及び搬入整備 ・関係備品等移転及び再設置 ・小野校舎の不要物品等廃棄 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合校開校 ・新1年生入学
令和9年度	<ul style="list-style-type: none"> ・実習棟新築工事実施 ・船引高校校舎への改修等各種工事実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習棟の備品整備 ・各備品等入札、発注及び搬入整備 ・関係備品等移転及び再設置 ・小野校舎の不要物品等廃棄 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習棟供用開始 ・小野校舎使用終了（3月末）

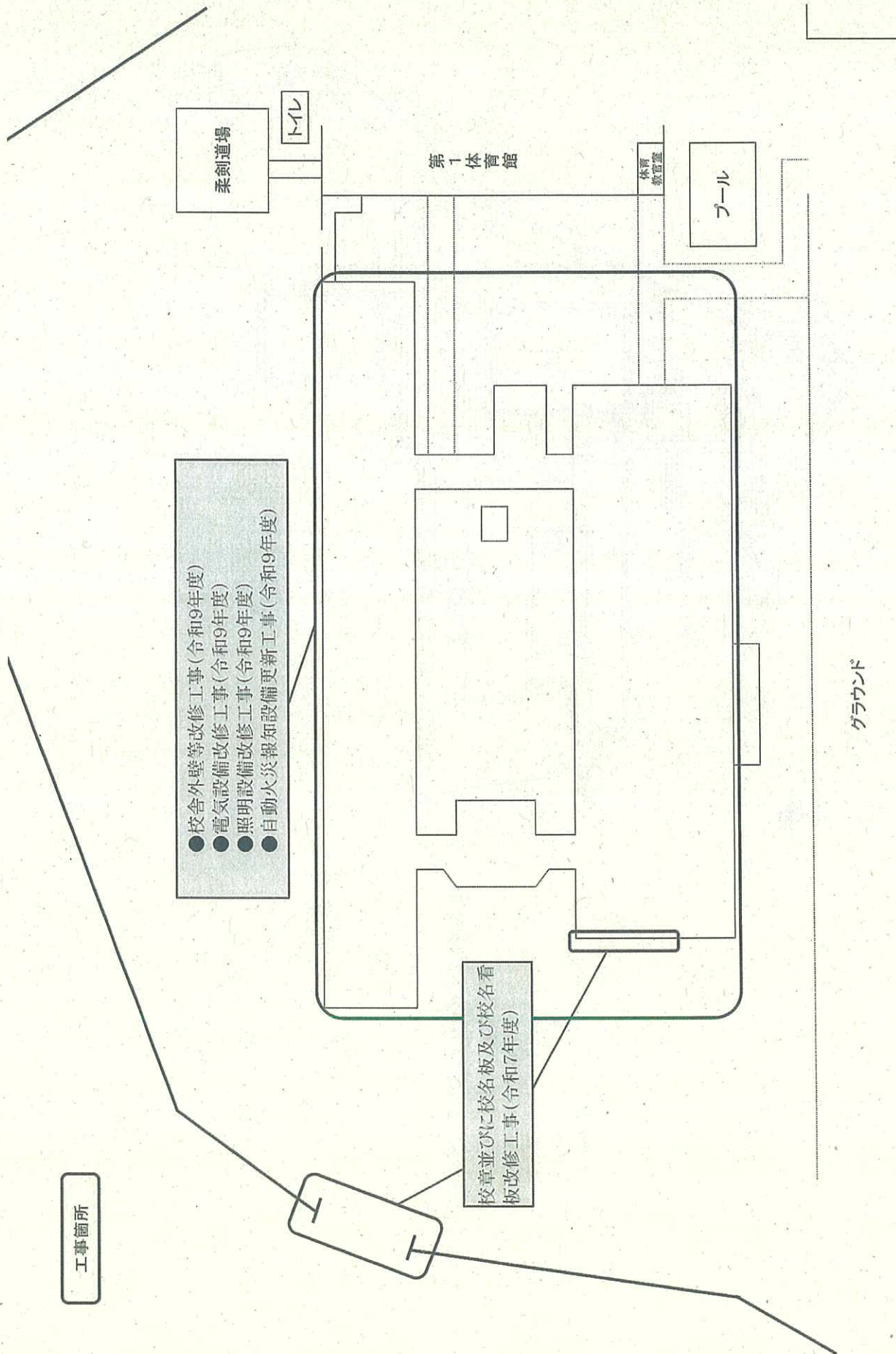
(6) 施設の配置等

●船引高等学校整備計画【その1：工事箇所①（校舎配置図）】

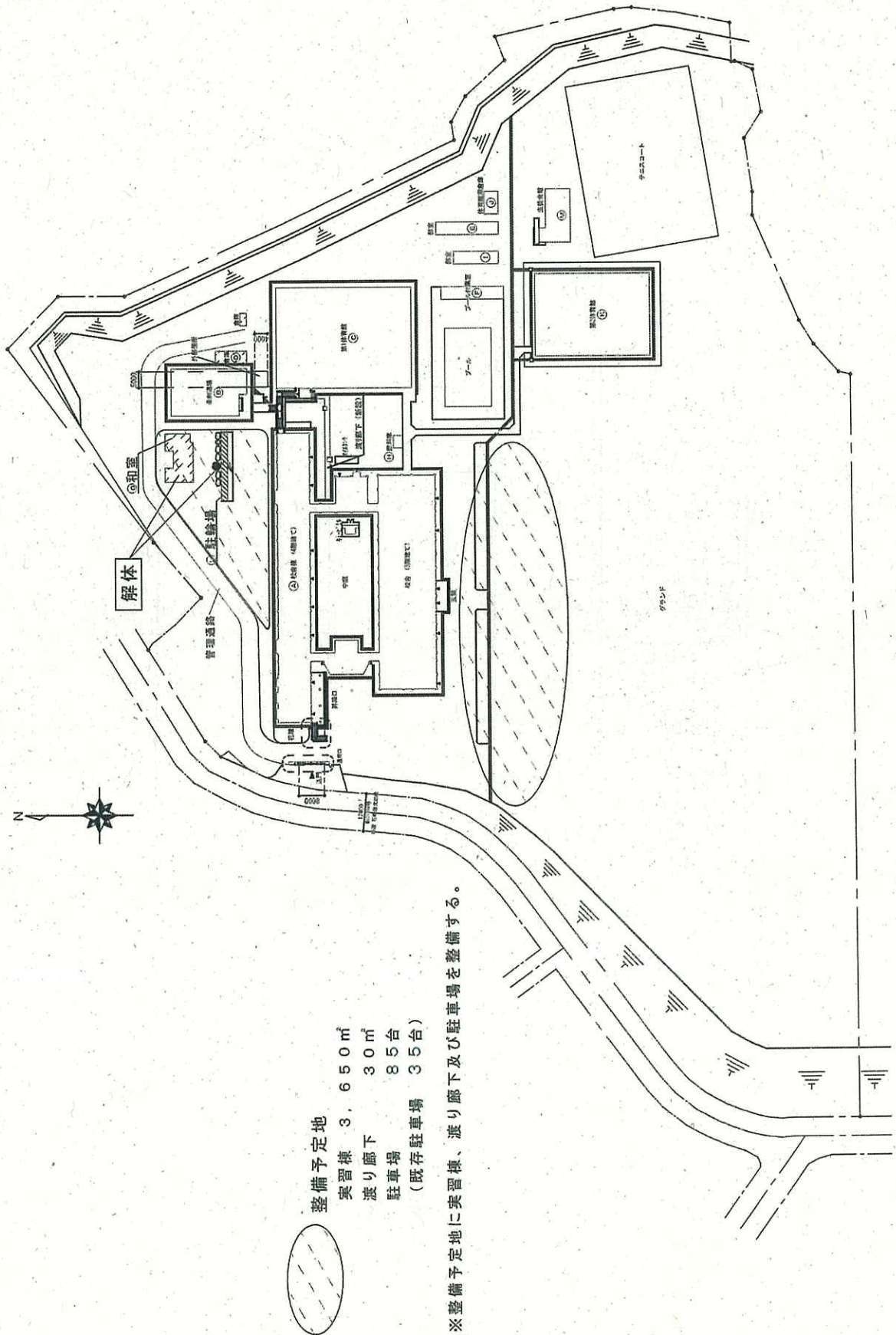




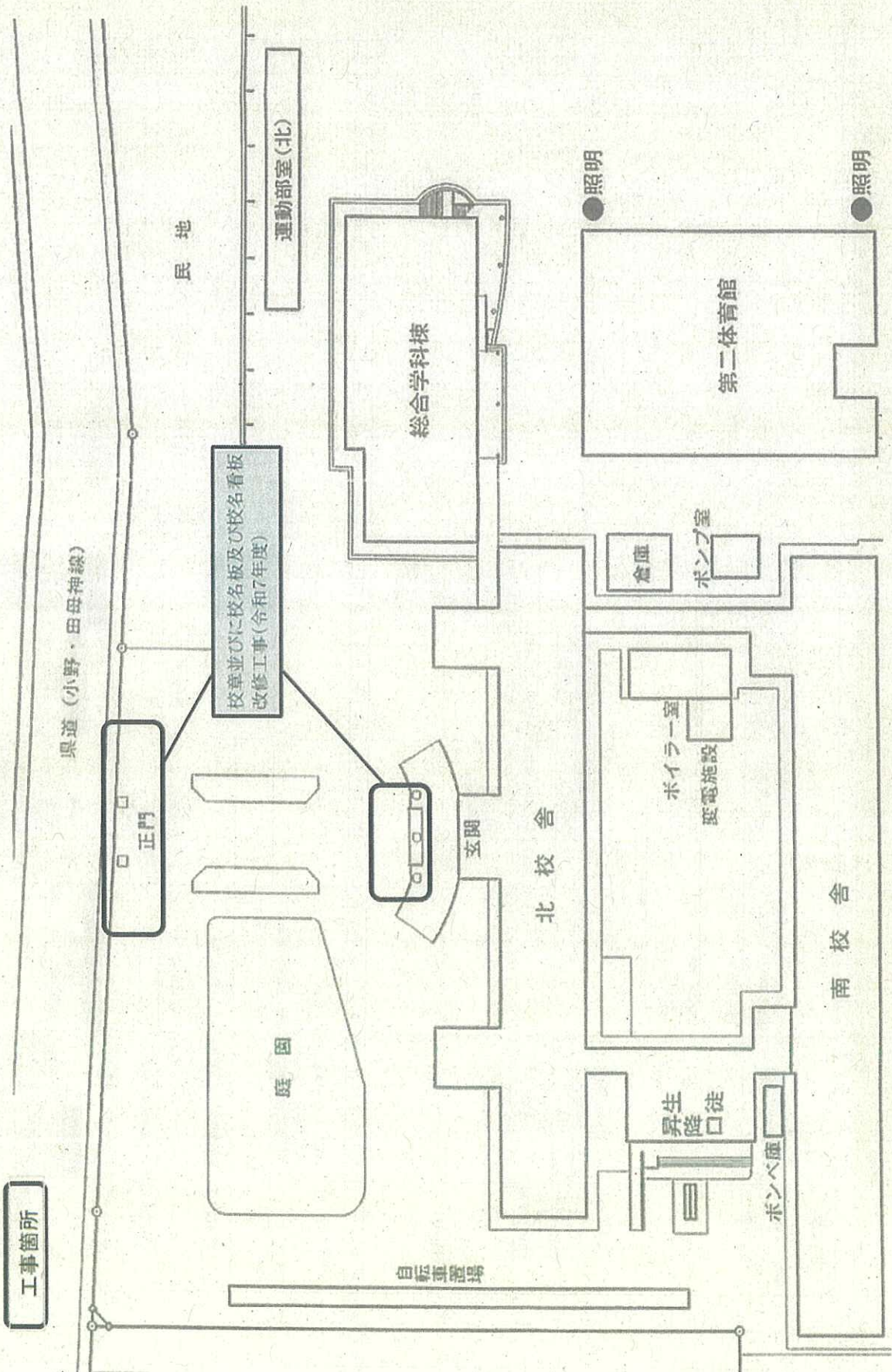
●船引高等学校整備計画【その2：工事箇所②（学校平面図）】



●船引高等学校整備計画【その3：実習棟等の整備予定地（学校平面図）】



●小野高等学校整備計画【学校平面図】



【別紙1】教育課程単位計画表(案)

年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32													
令和8年度	系列共通	現代の国語	言語文化	歴史総合	地理総合	生物基礎	数学I	数学A	体育	保健	音楽I 美術I 書道I	英語コミュニケーションI 家庭基礎	情報I 産業社会と国際	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
令和9年度	器・必修	文理解探 (文) (理)	A A I	A I	B I	B II	C I	C II	D	E	英語コミュニケーションII	公共	保健	体育	文学国語	総合的な探究の時間	フェアフル特別演習	自立活動	必修科目																										
			A II	B I	B II	C I	C II	D	E	世界史探究(文選必) 日本史探究(文選必) 地理探究(理必)									物理基礎 地学基礎	化学基礎 科学と人間生活	食品化学 食品製造 情報処理 社会福祉基礎 社会福祉基礎 電気回路 工業技術教育 フードデザイン 情報処理 社会福祉基礎 数学B 音楽II 美術II 書道II 古典探究 生物活用																								
令和10年度	群・必修	文理解探 (文) (理)	A A I	A I	B I	B II	C I	C II	D	E	英語コミュニケーションII	公共	保健	体育	文学国語	総合的な探究の時間	フェアフル特別演習	自立活動	必修科目																										
			A II	B I	B II	C I	C II	D	E	世界史探究(文選必) 日本史探究(文選必) 地理探究(理必)									物理基礎 地学基礎	化学基礎 科学と人間生活	食品化学 食品製造 情報処理 社会福祉基礎 社会福祉基礎 電気回路 工業技術教育 フードデザイン 情報処理 社会福祉基礎 数学B 音楽II 美術II 書道II 古典探究 生物活用																								
令和11年度	自由選択	文理解探 (文) (理)	A A I	A I	B I	B II	C I	C II	D	E	英語コミュニケーションII	公共	保健	体育	文学国語	総合的な探究の時間	フェアフル特別演習	自立活動	必修科目																										
			A II	B I	B II	C I	C II	D	E	世界史探究(文選必) 日本史探究(文選必) 地理探究(理必)									物理基礎 地学基礎	化学基礎 科学と人間生活	食品化学 食品製造 情報処理 社会福祉基礎 社会福祉基礎 電気回路 工業技術教育 フードデザイン 情報処理 社会福祉基礎 数学B 音楽II 美術II 書道II 古典探究 生物活用																								
令和12年度	自由選択	文理解探 (文) (理)	A A I	A I	B I	B II	C I	C II	D	E	英語コミュニケーションII	公共	保健	体育	文学国語	総合的な探究の時間	フェアフル特別演習	自立活動	必修科目																										
			A II	B I	B II	C I	C II	D	E	世界史探究(文選必) 日本史探究(文選必) 地理探究(理必)									物理基礎 地学基礎	化学基礎 科学と人間生活	食品化学 食品製造 情報処理 社会福祉基礎 社会福祉基礎 電気回路 工業技術教育 フードデザイン 情報処理 社会福祉基礎 数学B 音楽II 美術II 書道II 古典探究 生物活用																								